

2018 年度 電線需要見通し

2018 年 3 月 28 日
調査統計専門委員会

調査統計専門委員会では、2018 年度の電線需要見通しについて、2017 年度見込みを含めて取りまとめた。

内需は、下記日本経済マクロ指標を前提に、公知情報（電線出荷の足元状況含め）から統計的手法による分析に基づいた当委員各社のアンケート結果を集約し、輸出部門については、国際問題専門委員会幹事会で策定した。

足元の日本経済は、政府の経済施策の推進による雇用・所得環境の改善や海外経済の回復による輸出や生産の持ち直しが続く中で、個人消費や民間設備投資が改善してきており緩やかな回復基調にある。

2018 年度においても海外経済の回復は続く予想され、民需を中心とした景気回復が見込まれるが、中国では引き続き過剰債務問題が懸念されるなど海外経済の不確実性や金融資本市場の変動による影響など、リスク要因は存在する。

1. 概要

2017 年度の銅電線出荷見込み量は、内需 666 千トン（2016 年度実績比+0.4%）、輸出 20 千トン（2016 年度実績比+19.0%）と予測し、内外需計で 686 千トン（2016 年度実績比+0.9%）と 2014 年度以来 3 年ぶりに増となる見通しである。内需は、通信、電力で前年度比減となるものの自動車で大幅増が見込まれることから 2013 年度以来 4 年ぶりの増と予測した。一方、輸出についても 2014 年度以来 3 年ぶりに増となる見通しである。

2018 年度の銅電線出荷量は、内需 686 千トン（2017 年度見込み比+3.0%）、輸出 20 千トン（2017 年度見込み比±0.0%）と予測し、内外需計では 706 千トン（2017 年度見込み比+2.9%）となり 2014 年度以来 4 年ぶりに 700 千トンを超える見通しとなった。

需要部門別の内訳をみると、電力、電機、建設・電販、その他内需部門で前年度を上回り、輸出部門は横ばい、通信、自動車部門は前年度を下回る見通しである。特に建設・電販部門は、東京五輪や首都圏大型案件等の本格的な立ち上がりにより需要を牽引することが期待され、それに伴い全体需要が回復するという予測となった。

アルミ電線の 2017 年度見込み量は、内需 25 千トン、輸出 2 千トンで、合計 27 千トンと推定した。これに対し、2018 年度は内需 26 千トン、輸出 2 千トン、内外需計 28 千トンで、2017 年度見込み比+3.7%の増加と予測した。

2. 前提条件と主な参考指標

(1) 日本のマクロ経済指標（2018 年度：対前年度比）

・実質 GDP 成長率	+1.3%
・民間最終消費支出	+0.7%
・民間企業設備投資	+2.2%
・民間住宅投資	-1.2%
・鉱工業生産指数	+3.1%

- (2) 内閣府「平成 30 年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度(閣議決定)」
- (3) 電力広域的運営推進機関「全国及び供給区域ごとの需要想定」(2018 年度)
- (4) 経済産業省「2017 年度第 4 四半期 (2018 年 1-3 月期) 鋼材需要見通し
- (5) 一般社団法人日本鉄鋼連盟「2018 年度の鉄鋼需要見通し」
- (6) 一般財団法人建設経済研究所「建設経済モデルによる建設投資の見直し」2018 年 1 月
- (7) 一般社団法人電子情報技術産業協会「電子情報産業の世界生産見通」2017 年 12 月
- (8) 一般社団法人日本機械工業連合会「平成 29 年度の生産動向」
- (9) 一般社団法人日本電機工業会「2017 年度上期の電気機器の状況」
- (10) 一般社団法人日本自動車タイヤ協会「2018 年自動車タイヤ国内需要見通し」
- (11) 国際通貨基金「世界経済見通し改訂見通し」2018 年 1 月
- (12) 民間調査機関資料
 - ・みずほ銀行「みずほ産業調査 日本産業の中期見通し」2017 年 12 月
 - ・大和総研「第 196 回日本経済予測」

3. 需要見通し結果

部門	コメント	
通信	2017年度は、固定系通信の減少が進み、移動系通信の増加も鈍化が見られ、減と見込まれる。2018年度は、光化へのシフトが継続し、メタル電線の更新需要は期待できず、減と予測した。	
電力	2017年度は、再生可能エネルギーの連携線整備が予測に反して進まず、設備更新需要も縮小して、減と見込まれる。2018年度は、再生可能エネルギーの連携線整備や地中化などを含めた更新需要を期待して、増と予測した。	
電気機械	2017年度は、民間設備投資や家電の買い替え需要は堅調なものの、電力向けが伸びず、横ばいと見込まれる。2018年度は、民間設備投資や個人消費の堅調、エネルギー関連需要も上向くと期待して、微増と予測した。	
	重電	再生可能エネルギーや設備更新需要が上向くと期待して、増と予測。
	家電	個人消費の回復を期待するものの、海外生産シフト化も継続し、横ばいと予測。
	電子・通信	高機能品の需要増やIoT関連市場の拡大が期待され、横ばいと予測。
	電装品	電装化は進むものの、自動車生産台数は減少すると見られ、減と予測。
自動車	2017年度は、燃費不正問題鎮静化や新型モデル投入による国内販売の回復と輸出の堅調により、増を見込まれる。2018年度は、国内需要は前年の販売増の反動等により伸びは見込めず、対米輸出も減と予想され、減と予測した。なお、国内生産台数は944万台と予測した。	
建設・電販	2017年度は、東京五輪、首都圏大型案件の需要の立ち上がりが遅れ次年度にずれこみ、横ばいと見込まれる。2018年度は、東京五輪、首都圏大型案件の本格的な立ち上がりが期待され、増と予測した。	
その他内需	2017年度は、企業収益の回復により、民間企業設備投資が増加して、増と見込まれる。2018年度は、輸送系など民間設備投資の堅調は継続すると期待して、増と予測した。	
輸出	2017年度は、欧州向け電力送電ケーブルが好調で、増と見込まれる。2018年度は、欧州・アジア向け電力送電ケーブルは底堅く推移するものの、為替や開発投資環境など留意すべき点があり、横ばいと予測した。	

(注)コメント中の増減は対前年度比をいう。(2017年度は2016年度実績比、2018年度は2017年度見込み比)

図1. 2018年度電線需要予測結果

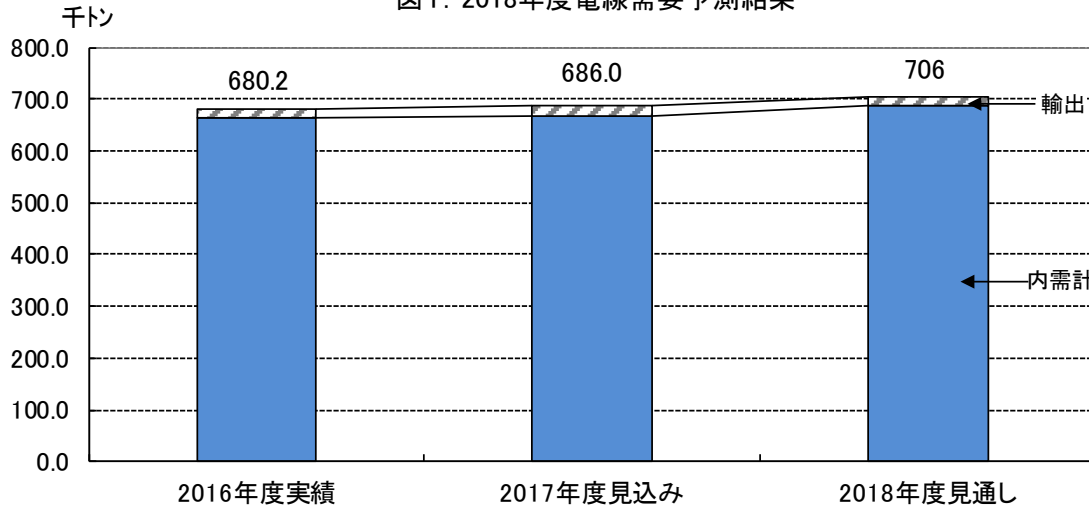


表1. 2018年度電線需要見通し

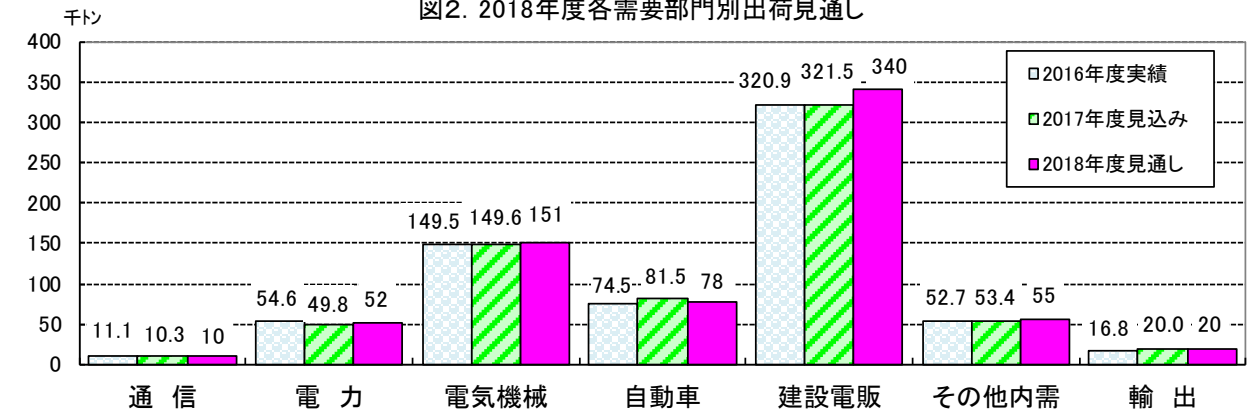
単位:千トン

銅電線	2016年度実績	2017年度見込み	17/16 伸び率	2018年度見通し	18/17 伸び率
内 需	663.4	666.0	0.4%	686	3.0%
輸 出	16.8	20.0	19.0%	20	0.0%
合 計	680.2	686.0	0.9%	706	2.9%

単位:千トン

アルミ電線	2016年度実績	2017年度見込み	17/16 伸び率	2018年度見通し	18/17 伸び率
合 計	28.4	27.0	-4.9%	28	3.7%

図2. 2018年度各需要部門別出荷見通し



2018年度見通し 部門別 2017年度見込み比

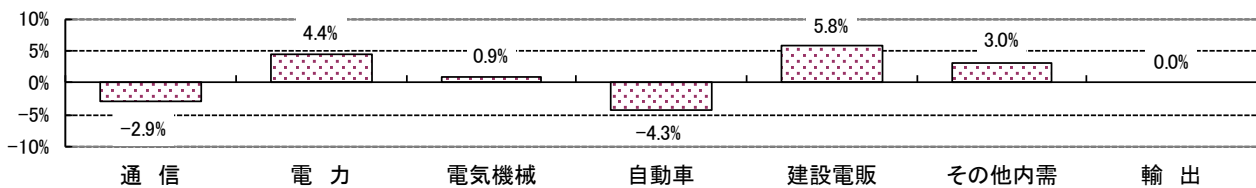


表2. 2018年度電線需要見通し

(主要部門別)

2018年3月

単位:千トン

年度 期 部門	出 荷								
	2016 (実績)	2017(実績見込み)			17/16	2018(見通し)			18/17
		上期 (実績)	下期 (見込み)	計		上期	下期	計	
通 信	11.1	5.3	5.0	10.3	(%) -7.2	5	5	10	(%) -2.9
電 力	(19.6) 54.6	(10.2) 25.2	(7.7) 24.6	(17.9) 49.8	(-8.7) -8.8	(9) 26	(9) 26	(18) 52	(0.6) 4.4
電気機械	149.5	73.2	76.4	149.6	0.1	74	77	151	0.9
重電	32.1	/	/	30.9	-3.7	/	/	33	6.8
家電	12.3	/	/	13.3	8.1	/	/	13	-2.3
電子・通信	27.2	/	/	27.7	1.8	/	/	28	1.1
電装品	57.9	/	/	58.3	0.7	/	/	57	-2.2
その他	19.9	/	/	19.5	-2.0	/	/	20	2.6
自動車	74.5	39.5	42.0	81.5	9.4	38	40	78	-4.3
建設・電販	320.9	156.6	164.9	321.5	0.2	160	180	340	5.8
その他内需	(6.8) 52.7	(3.5) 26.7	(3.6) 26.7	(7.1) 53.4	(4.4) 1.3	(4) 27	(4) 28	(8) 55	(12.7) 3.0
内需計	(26.4) 663.4	(13.7) 326.5	(11.3) 339.5	(25.0) 666.0	(-5.3) 0.4	(13) 330	(13) 356	(26) 686	(4.0) 3.0
輸 出	(1.9) 16.8	(0.5) 9.8	(1.5) 10.2	(2.0) 20.0	(5.3) 19.0	(1) 10	(1) 10	(2) 20	(0.0) 0.0
合 計	(28.4) 680.2	(14.3) 336.4	(12.8) 349.7	(27.0) 686.0	(-4.9) 0.9	(14) 340	(14) 366	(28) 706	(3.7) 2.9

(注) 1. ()内はアルミ電線を示し外数。

2. 四捨五入のため計と合わない場合もある。